

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1454 号	氏名	大橋 和明
学位審査委員	主 査 吉浦 孝一郎 副 査 永安 武 副 査 江口 晋		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、卵巣がん組織からがん関連線維芽細胞の分離培養を試み、その特徴を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 卵巣がん IA 期患者 6 名から得られたがん側線維芽細胞と正常側線維芽細胞を分離培養した後、免疫染色、Western ブロット解析、RT-PCR 法による卵巣がん関連 microRNA の定量、マイクロアレイ法を用いた網羅的遺伝子発現解析を実施し、両者の差を適切な統計検定法を適用して検出しており、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、<math>\alpha</math>-smooth muscle actin タンパク (<math>\alpha</math>-SMA) の発現量、<i>miR-142-3p</i> や <i>miR-200a-3p</i> の発現量が、培養期間にともない、がん側線維芽細胞で変動することが認められ、がん関連線維芽細胞に成功したと結論づけている。加えて、網羅的遺伝子発現解析において 2 倍以上あるいは 1/2 以下の発現量の差がある遺伝子を 21 個同定し、<i>FOXF2</i> が <i>miR-142-3p</i> の標的遺伝子であることを見出している。</p> <p>がん側線維芽細胞と正常側線維芽細胞は、その性質が異なることを示しており、がん関連線維芽細胞のがん進展やがん抑制等への役割についての研究進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は がん組織の微小環境研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			